



水事情



ガーナ

BOP層実態調査レポート

概要

水道は都市水道部門と地域水道部門の2つに区分される。水道は約87の都市にあり、国営のGhana Water Company Ltd. (GWCL) が管理している。水道は、水資源・公共事業・住宅省 (Ministry of Water Resources, Works and Housing) と地方政府・地域開発・環境省 (Ministry of Local Government, Rural Development and Environment) が管轄している。

地域社会の水道は、16,000を超える農村部の共同体と約287の小さな町にある。給水の管理は郡の議会と Community Water and Sanitation Agency の責任となっている。

全国で約1,030万人が、都市部では840万人の住民の61%が水道を利用することができる。GWCLの配水量の約半分が水道料金を徴収できない漏水などの不明水量になっており、有収水量は1日当たり28万 m^3 で必要水量76.3万 m^3 の半分にも満たない状況にある。

出張者が見たガーナ

訪問したアクラのNima地区では、地区内にある水道水が出る蛇口近くで生活用水が売られていた。容器は持参するか、購入場所にある容器に入れて持ち帰る。雨水は利用されていない。飲用には別途、袋に入った飲料水 (Ice Pak) が購入されている。Ice Pakは1袋10ペセワス (約4円) で、ペットボトルの飲料水は1本約1セディ (約41円) であった。



水を入れる容器



水道水の売り場



水売り場で水を買って帰る様子。
バケツ1杯当たり20セワス(約8円)



校庭に設置された飲料水用のタンク



IcePakの宣伝看板



道で売られる飲料水Ice Pak



飲料水を運ぶトラック



ペットボトル入り飲料水の宣伝が描かれたバス

JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。